

### 3. 検証対象ダムの概要

#### 3.1 安威川ダムの目的等

##### 3.1.1 建設の目的

(1) 洪水調節

安威川ダムの建設される地点における計画高水流量  $850\text{m}^3/\text{s}$  のうち、 $690\text{m}^3/\text{s}$  の洪水調節を行う。

(2) 流水の正常な機能の維持

安威川沿川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。

##### 3.1.2 位置及び名称

(1) 位置

淀川水系安威川

左岸 大阪府茨木市大字生保、安威地先

右岸 大阪府茨木市大字大門寺地先

(2) 名称

安威川ダム

##### 3.1.3 規模及び形式

(1) 規模

堤高 76.5m

(2) 型式

中央コア型ロックフィルダム

(3) 洪水調節方法

自然調節方式

##### 3.1.4 貯留量

(1) 総貯留量

最高水位は、標高 125.0m とし、総貯留量は  $18,000,000\text{m}^3$  とする。

(2) 有効貯留量

最低水位は、標高 90.2m とし、有効貯留量は、総貯留量のうち標高 125.0m から標高 90.2m までの有効水深 34.8m に対応する貯留量  $16,400,000\text{m}^3$  とする。

### 3.1.5 取水量及び放流量並びに貯留量の用途別配分

#### (1) 洪水調節

洪水調節を行う場合を除き、水位を標高 99.4m 以下に制限するものとする。洪水調節は、標高 125.0m から標高 99.4m までの容量 14,000,000m<sup>3</sup>を利用して行うものとする。

#### (2) 流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能の維持と増進を図るための貯水量は、標高 99.4m から標高 90.2m までの容量 2,400,000m<sup>3</sup>のうち最大 1,400,000m<sup>3</sup>とする。

※) 新規利水撤退に伴い生じる 1,000,000 m<sup>3</sup>の取扱いについては、コスト、事業スケジュール、実現性等の観点から「現計画案」、「ダム規模縮小案」を比較した結果、「現計画案」が優位であるため、有効活用容量として活用する。(4.5.3 ダム規模の検討 参照)

### 3.1.6 建設に要する費用

建設に要する費用の概算額：約 1,314 億円

### 3.1.7 工期

昭和 63 年度から平成 30 年度までの予定

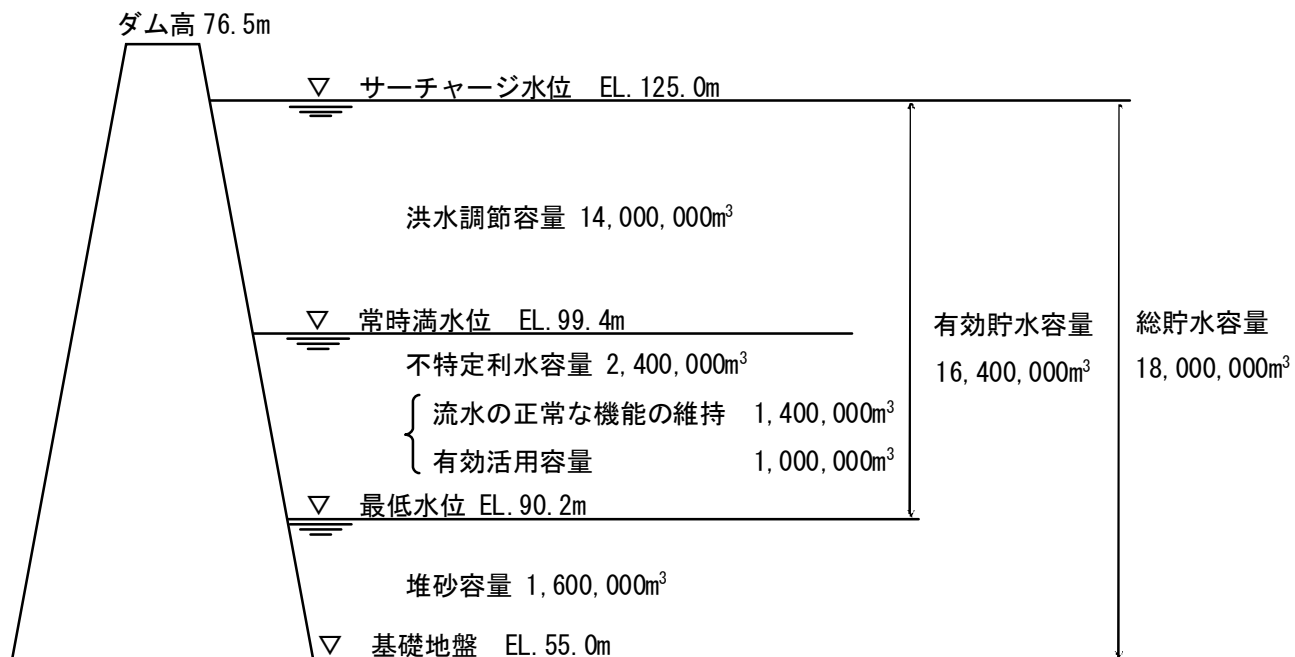


図 3.1.1 貯水池容量配分図

表 3.1.1 ダム・貯水池諸元

項 目	諸 元
(1) ダム諸元	
位 置	左岸 大阪府茨木市大字生保、安威地先 右岸 大阪府茨木市大字大門寺地先
型 式	中央コア型ロックフィルダム
堤 高	76.5m
堤 頂 長	337.5m
堤 体 積	2,191,000m <sup>3</sup>
非越流部標高	EL.131.5m
(2) 貯 水 池	
集水面積	52.2km <sup>2</sup>
湛水面積	80.7ha
総貯水容量	18,000,000 m <sup>3</sup>
有効貯水容量	16,400,000 m <sup>3</sup>
常時満水位	EL.99.4m
サーチャージ水位	EL.125.0m
設計洪水位	EL.128.9m
(3) 放流設備	
・洪水吐き	
常用洪水吐き	オリフィスによる自然調節 高3.6m×幅3.6m×1門
非常用洪水吐き	自由越流堤 越流幅71.3m、側水路長20m
計画高水流量	850m <sup>3</sup> /s
ダム設計洪水流量	1,300m <sup>3</sup> /s
・低水放流施設	低水放流設備：φ300mm 水位低下設備：φ800mm

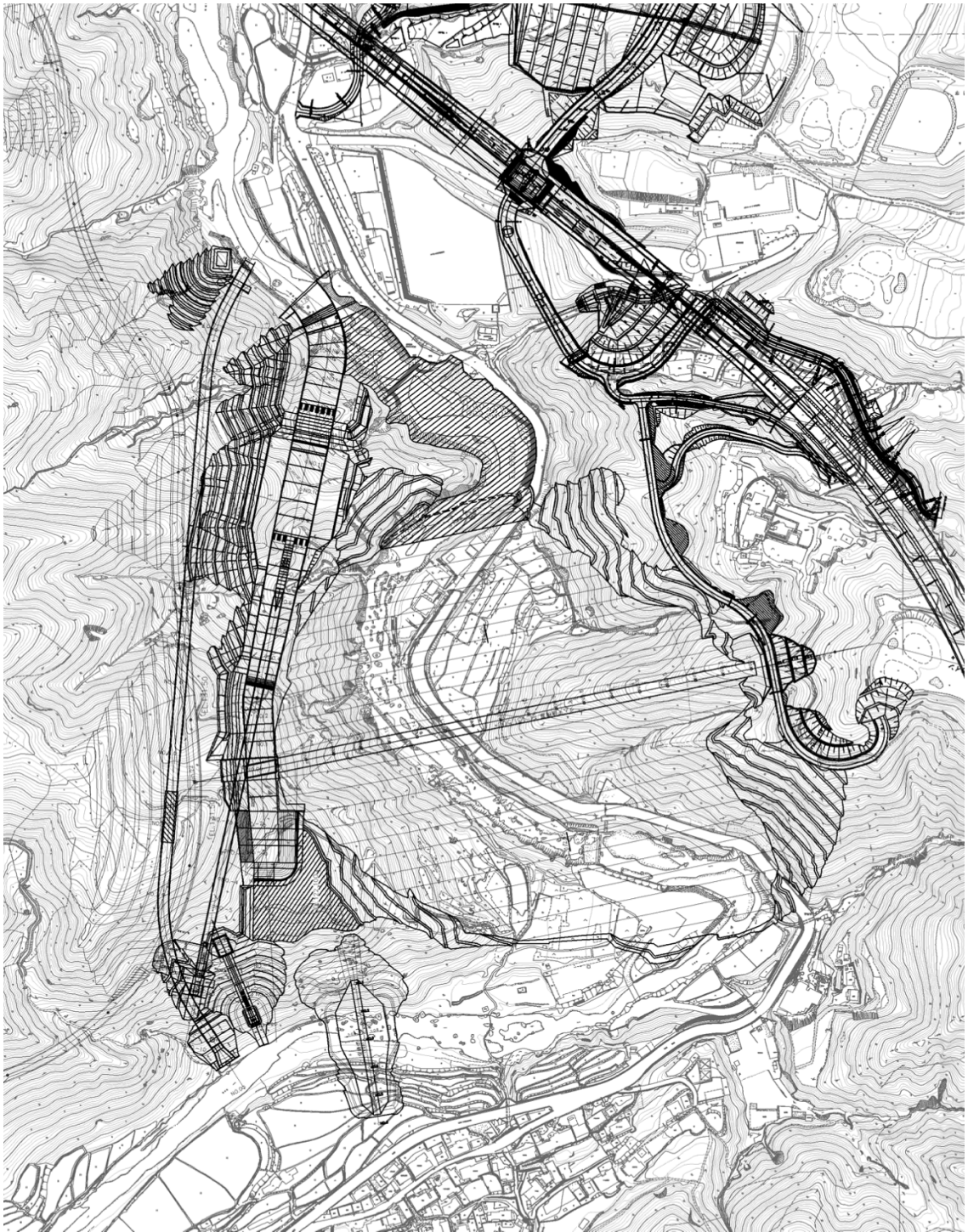


図 3.1.2 ダム平面図

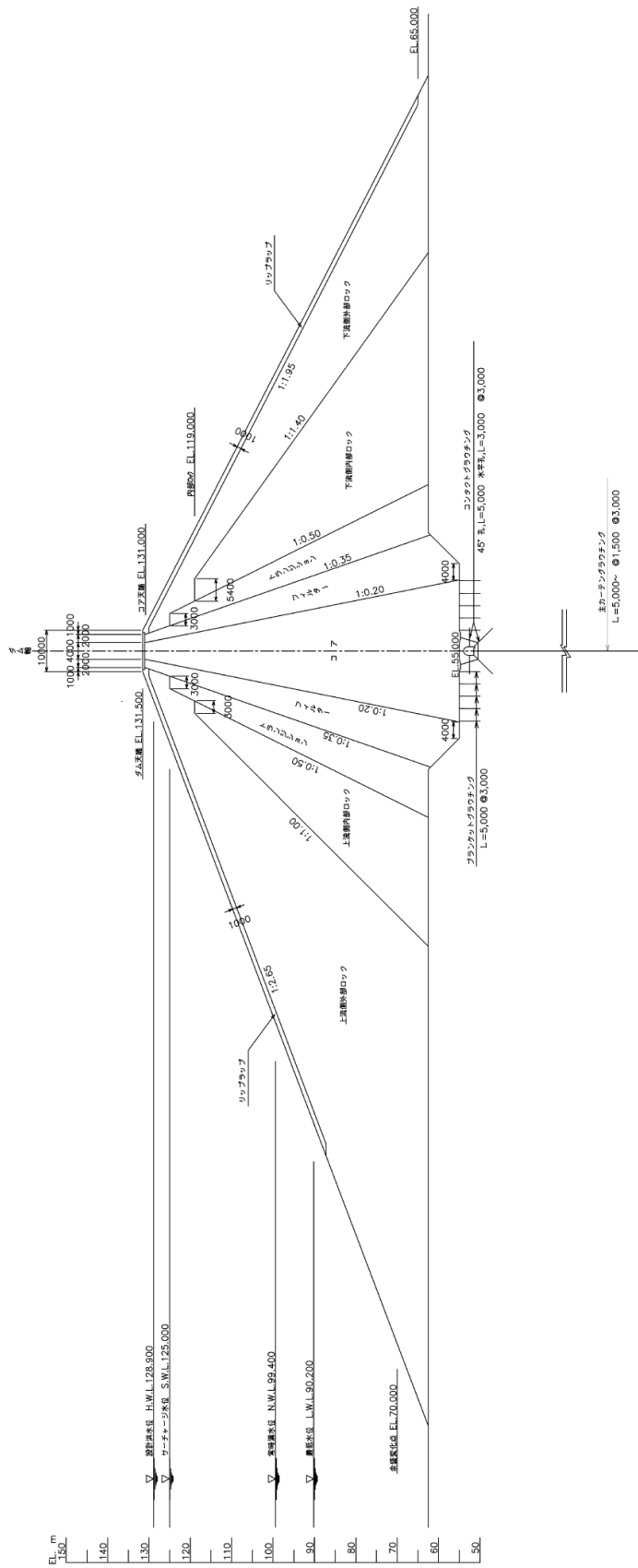


図 3.1.3 ダム標準断面図

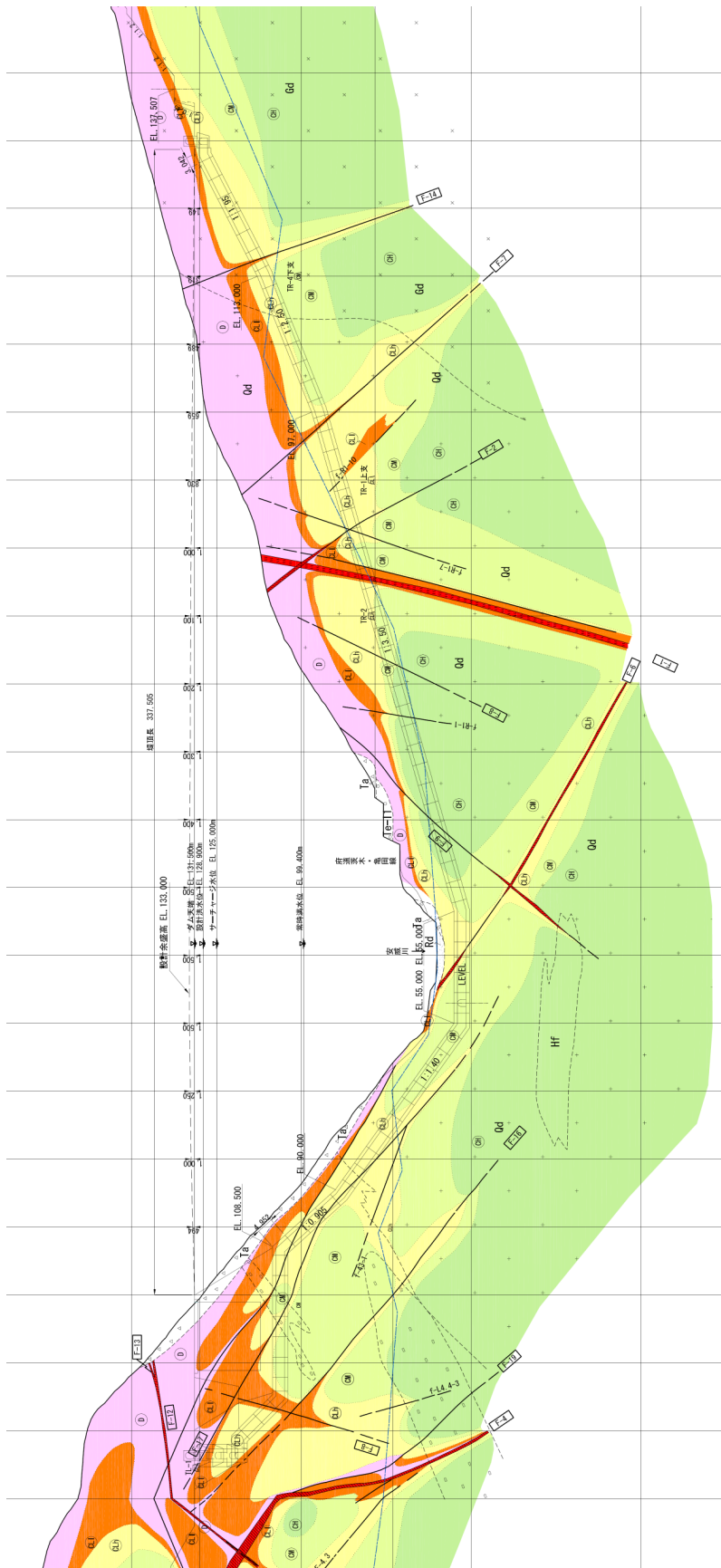


図 3.1.4 ダム上流面図

### 3.2 安威川ダム事業の経緯

安威川ダム事業の経緯は表 3.2.1 に示すとおりである。

表 3.2.1 事業の経緯

年月	経緯
S42.7	北摂豪雨災害
S46.4	多目的ダムにすることを決定
S51.4	実調着手
S62.12	建設採択
S63.11	大阪府営水道と基本協定締結
H5.1	水特法ダム指定
H6.3	環境アセス準備書提出
H8.5	環境アセス評価書提出
H8.6	環境アセス縦覧終了
H9.12	安威川ダム全体計画認可
H11.2	大阪府建設事業再評価委員会の審議〔事業継続〕
H11.3	損失補償基準協定締結（関係5地区）
H12.4	水特法に基づく水源地域の指定
H12.9	水源地域整備計画の決定
H13.3	水特法12条負担協定締結（府・市事業）
H14.5	安威川ダム自然環境保全対策検討委員会発足
H16.2	大阪府建設事業評価委員会(再再評価)意見具申 〔条件を付して事業継続〕
H17.8.8	安威川ダム自然環境保全マスタープラン策定
H17.8.19	大阪府の水源計画発表 (安威川ダム7万 m <sup>3</sup> /日→1万 m <sup>3</sup> /日)
H17.12.16	大阪府建設事業評価委員会意見具申（事業継続）
H18.1.23	大阪府建設事業評価委員会（府の方針）
H19.2.14	河川整備計画策定
H19.4.25	安威川ダム全体計画変更認可
H19.7.30	安威川ダム周辺整備検討委員会設立
H21.8.14	府民意見等の募集結果を踏まえ「安威川ダム周辺整備基本方針(案)」を策定
H21.8.31	大阪府戦略本部会議において、利水撤退方針決定。「治水ダムとして継続」

### 3.3 安威川ダム事業の現在の進捗状況

安威川ダム事業の進捗状況を表 3.3.1～表 3.3.3 に示す。

総事業費は、平成 22 年度末で約 65%が執行済みである。

用地買収の進捗率は 99%であり、事業予定地内の家屋移転も完了している。

付替道路の整備は平成 22 年 9 月に完了し、供用開始している。

表 3.3.1 予算執行状況

	全 体	H22 年度末
予 算 (億円)	1, 3 1 4	8 5 8 (6 5 %)

表 3.3.2 用地買収

	全 体	H22 年度末
面 積 (h a)	1 4 2	1 4 1 (9 9 %)

表 3.3.3 付替道路

	全 体	H22 年度末
延 長 (k m)	5. 4	5. 4 (1 0 0 %)

参：H22 年 9 月末に供用開始